

2009年1月8日（木）
大屋幸恵（武蔵大学 社会学部）

ソーシャル・キャピタル

社会関係資本形成の基盤としてのコミュニティ

1. <地域>がおかれている現状 ～ 地域コミュニティの機能は低下しているか

（参照：国土交通省「大都市圏におけるコミュニティの再生・創出に関する調査報告書」2005年8月）

（1）地域活動への参加状況

住民の約半数は、地域活動に参加していない

（2）地域が抱える課題

「地域の治安の向上（防犯）」、「ごみ、不要品の再資源化、交換、分別（ごみ問題）」、「災害時の対応（防災・防火）」、「環境保全・美化」が上位を占める

（3）地域活動に参加するための要因

活動への参加度 × 「年齢」「居住開始時期」「地域の住民活動の活発度評価」

「在宅曜日・時間帯」「徒歩圏でのつきあいの程度」

「可住地人口密度」「災害や犯罪時の信頼意識度」

①「積極的参加者」の特徴

「徒歩圏に知り合いはかなり多い」「住んでいる地域の可住地人口密度が5000人未満」

「祖父母の代より以前から住んでいる」「60歳以上」

②「消極的参加者」の特徴

「徒歩圏に知り合いはほとんど又はまったくない」「住んでいる地域の可住地人口密度が10,000人以上」「住民活動の活発度はわからない（→活動について知らない）」

「20歳代」

↓

地域・社会として次世代を育成する必要性

2. 社会関係資本とは何か

参考：ロバート・D・パットナム『孤独なボウリング：米国コミュニティの崩壊と再生』
（原著＝『Bowling Alone』2000年）柴内康文訳、柏書房、2006年

（1）社会関係資本／社会資本の定義

①L. J. ハニファン（革新主義時代の実践的改革者）

～成功した学校（ウェストバージニア州農村学校）にとってのコミュニティ関与の重要性を主張（1916年）

②R. D. パットナム（米、政治学・国際関係論）

「物的資本は物理的対象を、人的資本は個人の特性を指すものだが、社会関係資本が指し示しているのは個人間のつながり、すなわち社会的ネットワーク、およびそこから生じる**互酬性と信頼性**の規範である。」（訳書 p. 14）

③P.ブルデュー (仏、社会学)

～社会的ネットワークの中に組み込まれた社会的・経済的資源を強調
相互認識、相互承認とからなる持続的な関係ネットワークは資力の総体

(2) 社会関係資本の形式

①「橋渡し型」 (or 包含型)

- ・より広いアイデンティティや互酬性を生み出すことが可能
- ・外部資源との連携や情報伝播に優れる ～「**弱い紐帯の強さ**」 (M. グラノヴェッター)

②「結束型」 (or 排他型)

- ・内向きの指向をもち、排他的なアイデンティティと等質な集団を強化
ex) 民族ごとの友愛組織、教会を基盤にした女性読書会、洒落たカントリークラブ／
公民権運動、青年組織、世界教会主義の宗教組織など
- ・特定の互酬性の安定、連帯の機動
→ 地域の起業家にとっては事業立ち上げ時の財源、市場、信頼できる労働力を供給

(3) 社会関係資本の測定変数

- ①コミュニティ組織生活の指標：各種地域活動への参加と所属
- ②公的問題への参加の指標：大統領選での投票率、
地域や学校に関する公的会合への出席
- ③コミュニティボランティア活動の指標：**地域のNPO数**、コミュニティ事業・
ボランティアへの参加回数
- ④インフォーマルな社交性の指標
- ⑤**社会的信頼**の指標

の合成として捉える

**ミクロ＝マクロレベルの資本の蓄積が、社会を効率的にすることを通じて安全で繁栄した、
子供が健全に、人々が健康に暮らす、民主主義的で寛容、平等な社会を生む可能性を高める。**

(4) アメリカにおける社会関係資本の衰退

60年代からの30年間で大幅に減退

要因

- ①世代の変化
～戦前世代 (「^{ロング・シビック・ジェネレーション}長期市民世代」) とベビーブーム世代との間で大きい
- ②娯楽の個人化
- ③労働の過重化
- ④都市のスプロール化

3. 社会関係資本の礎としてのコミュニティ

(1) 「コミュニティ」の捉え方

①マッキーバー (米、社会学)

「共同生活の行われている生活空間」

***アソシエーション**

社会的存在がある共同の関心<利害>または諸関心を追求するための組織体（あるいは
<組織される>社会的存在の一団） コ 町会・自治会、市民活動団体、**NPO組織**

②リー（加、ソーシャルワーク）

コミュニティは、経済的・政治的な制度と家族や個人生活とのインターフェイスである。

(2) コミュニティへの参加と組織化

①目的

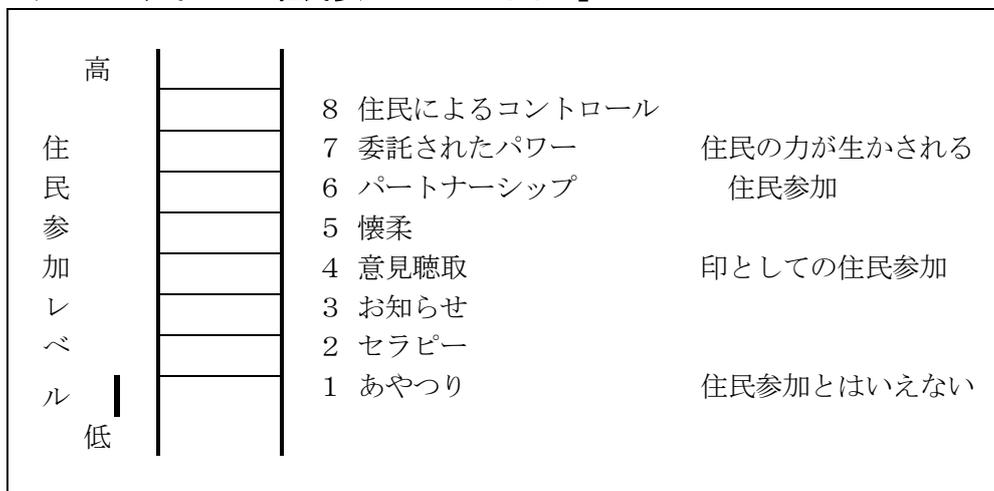
社会関係資本の形成・蓄積のため

～「豊かさ」の質を問い直すこと = 「幸福」や「満足」の対象の変更

∴ 高度成長 → **持続可能な社会**へのパラダイム転換

②住民参加の方法

S. アーンスタインの「住民参加の8つのはしご」



③コミュニティの組織化

「コミュニティの組織化とは、不利益を被っている人々が力をつけて、自分たちの環境に影響を及ぼさせるような能力を最大にしようとする社会的な介入である。

力とはつまり、資源を獲得すること、不適切な制度と法を変革・改正すること、新しい制度と法を作ること、自分たちの要求やあらゆる人間の要求に対してより責任をもつことである」（B. リー 2005年『実践 コミュニティワーク』学文社、pp:78-79）

↓

コミュニティ組織を通じ、コミュニティ内の議論や活動、より広い社会的、政治的、経済的機関や団体との議論や活動に関与する能力の醸成：**エンパワーメント → 地域・社会の変革へ**

<参考文献・資料>

デランティ,J., 2006年 『コミュニティ：グローバル化と社会理論の変容』NTT出版
国土交通省 2005年8月 「大都市圏におけるコミュニティの再生・創出に関する調査報告書」
大屋幸恵 2004年 「NPO その日本的展開：コミュニティ空間を紡ぐNPOを事例として」『社会学年誌』(45号) pp.163-181.
パットナム,R.D., 2006年 『孤独なボウリングー米国コミュニティの崩壊と再生』柏書房
リー,B., 2005年 『地域が変わる 社会が変わる 実践 コミュニティワーク』学文社
世古一穂 2001年 『協働のデザイン』学芸出版社